

長野日報 12月6日 掲載

紙飛行機 遠く飛ばせ

駒工高校生教室 小学生が製作

駒ヶ根工業高校(駒ヶ根市)情報技術科の3年生は2日、地元の小学生に滞空時間の長い紙飛行機の作り方を教える教室を、同市赤穂小学校体育館で開いた。高校生は室内で飛ばす軽量飛行機を研究する同科インドアプレーン班の4人。参加した児童、保護者ら約70人が紙飛行機を手作りし、



紙飛行機を飛ばす前に機体バランスをチェックする小学生



駒工生から紙飛行機の作り方を習う男の子

みんなで飛ばして楽しい時間を過ごした。駒工では3年生になると生徒が各自の課題を研究し発表する授業があり、4人は小型の電子基板とモーターを搭載した軽量飛行機を開発している。授業の課程では、生徒が滞空時間の長い紙飛行機の研究を実施。手投げでの飛行距離が約30メートルにも及ぶ機体を作った経験もある。

この日の教室では、児童が高校生の指導を受けて折り紙の機体を制作。割り箸の先端に付けた輪ゴムの伸縮性を利用して実際に飛ばした。打ち上げた機体は一度、体育館の天井付近まで一直線に急上昇し、その後らせん状に下降しながら床へ着地した。飛ばす前は落ち着いていた子どもたちも、予想以上に良く飛ぶ飛行機に目を輝かせ、自分の機体を追い求めて体育館を走り回った。駒工3年の中山大貴さん(18)は「機体は左右均等に作り、尾翼の端を上側に少しだけカールさせると、機首が斜め上を向いた姿勢で飛び続けるので滞空時間が長くなる」と助言した。同班顧問で、自らも紙飛行機の設計をする竹内浩一教諭は「紙飛行機の出張教室を開く準備はあるので、気軽に声を掛けてほしい」と話した。